

○ 道内における今後の生産拡大の方向性（2030年頃を目途）

作物名	面積				計	単収	生産量	矢印の考え・コメント
	水田		畑地	草地				
	稲作	転作						
米	主食用米	需要に応じた生産	—	—	—	↑	↑	低コスト省力化に向けて ・スマート農業技術の普及を推進 ・多収性や直播適性を有する品種の開発や普及を推進
	加工用米・輸出用米・備蓄米・米粉用米 ※飼料用除く	↑	—	—	→	↑	↑ (加工用米等が増えることによる増)	・主食用米の需要が減少していく中、稲作生産力を確保するため、加工用米や輸出用米などの非主食用米の生産を推進し、水張り面積を確保
麦類	小麦	—	一部畑地化	—	→	↑	↑	・畑作物の作付面積に占める小麦の割合が約4割となっている中で、適正な輪作体系を確立しつつ、収量向上、供給量と品質の安定化を図っていく ・収量向上については、多収で病害に強い品種開発や安定生産技術の普及、畑に比べて低い水田における単収向上が課題
豆類	大豆	—	一部畑地化	—	→	↑	↑	・湿害対策等の営農技術の導入や、生産拡大に必要な機械、施設等の導入を支援し生産基盤の強化を図る ・機械収穫の適性に優れた莢の弾けにくい難裂莢性品種や従来品種より単収向上が期待される極多収品種の開発を推進
飼料	粗飼料 ※牧草、青刈りとうもろこし、稲WCS	↑ (稲WCS)	→ (牧草・青刈りとうもろこし)	↑ (青刈りとうもろこし)	→ (一部青刈りとうもろこしへ転換)	↑	↑	・国の支援を活用し、優良品種を用いた計画的な草地整備改良や難防除雑草駆除、飼料流通体制の構築に向けた実証、飼料作物の生産拡大や省力化等に必要作業機械の導入などを支援 ・輸入(濃厚)飼料の削減に向け、良質粗飼料の確保やロスの少ない飼料生産を実施するため、ピンポイント草地更新の普及や植生改善に向けた優良事例を紹介
	濃厚飼料 ※子実用コーン等	—	↑ (子実用コーン)	※ (子実用コーン等)	—	↑	↑	・飼料作物の生産拡大に向け、耕種農家と畜産農家とのマッチングを促進
備考			※十分な議論が必要					